

千葉県にオリンピック・パラリンピックがやってくる!



千葉県議会議員（四街道市選出） **鈴木 陽介**

昨年6月に開催された国際オリンピック委員会（I O C）理事会において、幕張メッセにてレスリング、フェンシング、テコンドーの3種目を行う計画が承認されました。また、昨年11月には国際パラリンピック委員会（I P C）理事会で、ゴールボール、テコンドー、シッティングバレーボール、車いすフェンシング4種目も同会場にて行う計画が承認されています。結果として、東京以外の都市では最も多くの種目が本県で開催されることとなりました。さらには、競技会場がまだ決まっていない野球・ソフトボールやサーフィンなどが本県で開催される可能性も残っており、種目の追加もあるかもしれません。超党派で構成される「千葉県議会スポーツ推進議員連盟」に所属する私としても2020年が楽しみで、とてもワクワクしています。

ただ、この世界的な大イベントが本県に与える影響は非常に大きく、残り4年半という準備期間において本大会がもたらす効果を千葉県の発展につなげるためには、取り組むべき課題が山のようにあります。県議会での議論も増えてきました。本稿では、2020年東京オリンピック・パラリンピックがもたらす本県への影響や今後の課題、対策について特集します。全競技の開催会場については資料1をぜひご覧ください。

■大きなチャンスでもあり、政策上の課題が増えることにもなる

私自身、本県で7競技の開催が決まったことについては、全世代の県民にとって大きなチャンスであると捉えています。受け入れ県として、各政

策分野での綿密な準備を重ねることが出来れば、県民や地域、県内各産業への波及効果が高いものと考えます。

例えば、スポーツの普及や運動意識の向上が前に進めば、私が県議会でライフワークとしている「健康寿命の延伸」を推進できます。また、障がいがあっても共に支え合う意識やボランティア意識の向上など「共生社会」をより一層推進するためのきっかけにもなるでしょう。海外からの観戦客に千葉の魅力をPRし、理解してもらえれば、その後の観光にも繋がります。私は特に「食」の魅力発信については積極的な準備態勢を取るべきと考えます。本県の美味しい農水産物を気に入ってもらえば、本県で農水産業に従事されている方々の所得も向上します。また、子どもたちに対しては、国際感覚を磨く教育上の取組が進んだり、トップクラスの選手と接し、試合を観戦することで大きな夢や希望を持つことがいかに大切かを学ぶことができ、千葉県の将来を担う人づくりに繋がるのでないでしょうか。

しかし、いいことづくめでは決してありません。その効果を楽しむためには多くの課題を乗り越えていかなければなりません。具体的な課題については以下記載していきますが、本県の決して潤沢ではない政策資源の重心が大きくこの受け入れ準備に寄ることになることも伝えておかなければなりません。

■官民一体の「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」が軸に

さて、オリンピック・パラリンピックの開催効

果を余すところなく本県中に波及させ、そこに立ち上がる各課題に対応すべく、一昨年11月に、経済、交通、観光、スポーツ、文化、国際交流、行政の各分野を代表する方々で構成される「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」（会長：森田健作知事）が設立されました。本県が競技開催県となる前から作られていたわけですが、競技の受け入れが決定し大きくブラッシュアップがなされました。行政・団体・大学・企業などが、互いに取組の方向性を共有しながら連携し、相乗効果を生み出すことが期待されています。

本推進会議では、オリンピック3競技の本県開催が決まった昨年6月に、「2020年東京オリンピッ

ク・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を策定しています。大会の成功に向けた取り組みにとどまらず、2020年以降をも見据えて何をすべきかを規定しています。今後、国、東京都、大会組織委員会等における議論の進み方に応じて、柔軟に新たな取り組みを盛り込んでいくこととされています。

この戦略が、本県のオリンピック・パラリンピックに対する政策の方向性を定める中核的な存在となるわけですが、せっかくの機会なので、少し詳しくその骨子について説明させていただきます。

基本方針としては、Ⅰ. 未来に向けた「人づくり」と「共生社会」の実現、Ⅱ. 大会の波及効果による「経済活性化」、Ⅲ. 「国際社会の中で発展

資料1 2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技会場（計画）

会 場	オリンピックの競技種目	パラリンピックの競技種目
幕張メッセ	フェンシング、テコンドー、レスリング	ゴールボール、テコンドー、シットイングバレーボール、車いすフェンシング
新国立競技場	開会式、閉会式、陸上	開会式、閉会式、陸上
東京体育館	卓球	卓球
代々木競技場	ハンドボール	バドミントン車いすラグビー
日本武道館	柔道	柔道
東京国際フォーラム	重量挙げ	
両国国技館	ボクシング	
有明アリーナ	バレーボール	車いすバスケットボール
有明体操競技場	体操	ボッチャ
有明テニスの森公園	テニス	車いすテニス
お台場海浜公園	水泳、トライアスロン	トライアスロン
潮風公園	ビーチバレー	
大井ホッケー競技場	ホッケー	
海の森コース	馬術	
海の森水上競技場	カヌーボート	カヌーボート
カヌー・スラローム会場	カヌー	
夢の島公園	アーチェリー	アーチェリー
五輪水泳センター	競泳、飛び込み、シンクロ	競泳
東京辰巳国際水泳場	水球	
馬事公苑	馬術	馬術
武蔵の森	バドミントン、近代五種	車いすバスケットボール
味の素スタジアム	近代五種、ラグビー	
さいたまスーパーアリーナ	バスケットボール	
自衛隊朝霞訓練場	射撃	射撃
霞ヶ関 CC	ゴルフ	
江の島	セーリング	
静岡県伊豆市	自転車（トラック、マウンテンバイク）	
有明 BMX コース	自転車（BMX）	

※大会組織委員会資料などから鈴木作成 2015年12月現在

☆サッカーについては、札幌ドーム、ひとめぼれスタジアム宮城、埼玉スタジアム、新国立競技場、味の素スタジアム、日産スタジアムにて開催されます。我らが千葉県にあるフクダ電子アリーナで開催されないのは残念です。

するCHIBA」の3つを掲げ、実現に向けて(1)キャンプの誘致とスポーツ振興による地域の活力づくり、(2)人と物のスムーズな流れの確保、(3)魅力ある観光地づくりとおもてなし力の向上、(4)大会のサポート、(5)戦略的な千葉の魅力発信、という5つの方向性を示しています。

そして、その具体的な戦略として10項目のテーマを挙げています。①大会の成功・開催効果の全県への波及、②キャンプ・国際大会・MICE誘致、③競技力の向上・スポーツの普及、④成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化、⑤バリアフリー化の促進、⑥魅力ある観光地づくり、⑦外国人受け入れ態勢、⑧危機管理・安全対策、⑨機運の醸成・国際交流の促進、⑩戦略的な千葉の魅力発信です。

それぞれに専門部会が構成され、千葉県、県内市町村、千葉県を拠点にされている民間会社や業界団体、県内大学など様々なプレーヤーが各部会を織りなしています。

次項からは山積する課題のなかでも、私が特に注目しているテーマについて紙面の許す限りお伝えしたいと思います。

■山積する課題のなかでも特に対策が必要なテーマ

テロ対策と健康危機管理対策

まず、オリンピック・パラリンピックを受け入れる本県が最も注意しなければならないのは、危機管理だと私は考えます。昨年パリでテロが起りましたが、世界的なイベントは注目度も高く、格好の標的になる恐れがあります。県民の命、財産は当然のことながら、国内外から訪れる多くの大会関係者や観客などの安全・安心を確保するため、県や県警を中心に組織委員会など関係機関と連携し、未然防止に全力で取り組まねばなりません。競技会場となる幕張メッセ、海外からの玄関口である成田空港の他、港湾や公共交通機関などの大会関連施設等について警備・消防・危機管理体制の強化が必要不可欠です。大会を開催した結果、県民が危険にさらされぬよう万全の体制を敷かねばならないことを、民主党千葉県議会議員会

の先輩議員と連携しながら議会内外で強く提言してまいります。

また、東京オリンピックの開催期間は2020年7月24日(金)から8月9日(日)と、昨年为天候を考慮すれば日本の最も暑い時期です。猛暑が予想され、熱中症に気を付けなければなりませんし、感染症等の可能性も無視できません。このような健康上の危機管理も必要です。安心して滞在し、観戦できるよう、医療関係団体などと連携して情報の共有化を図り、感染症に対する初動体制の強化や、食品・生活衛生に係る事業者への指導、熱中症予防の啓発などに取り組むべきと考えます。このテーマについては、すでに県議会本会議でも質問がなされ、今後、県として体制の充実を図ることを答弁しています。

競技会場及び周辺環境の整備とアクセス充実

ハード面の整備も大きな課題の一つです。幕張メッセは建設から26年を経過して老朽化が著しくなっています。施設の改修費は総額150億円とも言われ、バリアフリー化など必要な対策を積み上げていけば更なる増額もありえます。この整備費用を捻出するために、国・県・市のせめぎ合いが勃発します。特に県と市の間での負担割合の折り合いをどうつけるのか。財源論は難しい問題です。その他、競技会場周辺のバリアフリー化や多言語対応の充実、ユニバーサルデザイン・カラーの導入、公衆無線LANやトイレの整備などにもお金がかかります。限りある財源の中でどこまでやるか、やれるかの議論を早期にすべきです。また、受動喫煙を防止するための法や条例の整備も必要です。少し話はそれますが、ハード面でのバリアフリーは上記のようにまさにバリアが多いわけですが、ソフト面、心のバリアフリーにはお金がかかりません。パラリンピックが開催されることにより、大人も子どもも障がいのある方々のことを知り、理解し、寄り添うことで、共に生きる社会をより成熟させられれば、それは大会終了後も千葉県のレガシー（遺産）なるでしょう。

また、幕張新都心への輸送力強化や大会期間中の競技会場周辺地域の交通の円滑化も大切です。

大会期間中であっても、普通に生活する人たちが混乱しないような交通ネットワークの確保が必要です。また、グローバルハブ空港としての機能強化を目指す成田空港と首都圏の各都市を結び、経済の活性化や国際競争力の強化に取り組むことも課題です。ただし、受け入れ準備にかこつけて、不要不急の事業にまで財布のひもを緩める結果となつてはなりません。そこは議会の腕の見せ所でしょう。

千葉が持つ魅力的な地域資源の創出と国内外への発信

また、本大会は、TOKYOの隣に位置する都市CHIBAをアピールする絶好の機会だと考えます。あらゆる地域資源、観光資源を磨き上げ、観戦を通じてCHIBAを知ってもらい、ファンになってもらうための準備をどこまで念入りに行えるかが、これからの都市間競争に勝つか負けるかの分かれ道になると思います。

千葉には多くの魅力がありますが、なかでも特に私が関心を寄せているのは、県産農水産物を活かした、「食」です。2012年ロンドン大会では野菜や果物330トン、水産物82トンという大量の食材が選手村で消費され、各競技会場では多くの観光客が食を堪能しました。大会組織委員会も選手村や各会場を、「和食をアピールする場」と位置づけ、できる限り国産の食材を使いたいとのこと。東京のすぐ隣にあり、全国屈指の農水産県であるわが県は美味しく安全な県産品を多品種にわたり提供することで、国内外に「千葉」の魅力を発信すべきと考えます。そして、その後の消費拡大・輸出促進に活かすべきです。

しかしながら、昨年7月27日の読売新聞で、「東京五輪・パラリンピックの選手村や各競技会場で日本国産の食材を提供できない恐れがある」という衝撃的な記事が発表されました。それは直近の大会、2012年ロンドン大会や本年開催のリオ大会で採用されている「食材の調達基準」を国内産地・漁場が満たしていないことへの警鐘です。農産物でいえば「GAP (Good Agricultural Practice)」、水産物でいえば「MSC」「ASC」といった認

証制度の普及が遅れており、取得に向けた環境づくりをすべきと議会でも主張させていただきました。紙面の関係上、詳しくは、昨年10月6日に私が初登壇した際の県議会会議録を県議会HP等からご覧ください。

国際感覚を醸成するための教育体制づくり

さらには、将来を担う子どもたちが共生社会への理解を深めたり、国際交流が進めたりするための教育現場や行政の創意工夫が求められる。千葉県の未来を担う子どもたちが、国際社会においても活躍できるよう、自国の歴史や文化を理解したうえで、積極的に異文化やその多様性を認め、他国を尊重する姿勢を育てる国際理解教育を地域と学校が連携し推進するとともに、外国語教育を充実させることも必要です。あくまでも教育現場の負担が増えないよう配慮しつつ、子どもたちが肌で感じた「体験」を余すところなく彼らの糧にできるような環境整備を進めるべきと考えます。

■終わりに

4年半というのは、あっという間です。エンブレムや新国立競技場の混乱で、体制づくりが遅れが生じているなか、7競技を受け入れる我が千葉県は全力で山積する課題に取り組まねばなりません。オリンピック・パラリンピックがもたらす効果を県内市町村に住む全ての県民が享受できるよう、開催後も本大会のレガシー（遺産）がこれからの千葉県に発展をもたらすよう、県議会での議論を深めてまいります。ぜひ、皆様のお知恵や経験に裏打ちされたご意見を自治研で共に学ぶ私も議員にお届けくださればと存じます。万全の体制で大会を迎えられるよう、今後も政策提言を主とした議会活動に邁進させていただきます。

すずき陽介 プロフィール

2007年 慶應義塾大学 法政学部政治学科卒業
2012年 四街道市議会議員に当選
2015年 千葉県議会議員に当選